

零 細 農 の 経 営 経 済 的 研 究 第 1 報 生 産 構 造

中 川 隴 一*

NAKAGAWA, R. On the Management of Small-scale Agriculture
I. On the Productive Structure

1. はしがき わが国の農業経営は零細な土地、資本に過大な労働が投下された形で、且つそれに消費面が複雑に絡み合っており、特に零細農については従来ややもすれば農家対象からはずされ勝ちであったため、その実態は単なる統計数字や事例的に抽出された資料では殆んど明らかにされず、従つて完全な分析は行い得なかつた。

これらの不備を補い、更に農村社会の内部において零細農の占める位置を明らかにして、農業経営経済的な観点からの改善を図るために、鹿児島県の一農村(薩摩郡高城村)を選んで、各種の調査を行つた。

2. 生産構造 零細農を経営面積の規模に応じて(10部落487戸)2反毎に階層区分を行い、夫々A, B, C...とし、経営主を中心とした人口構成を男女別、年齢別(10才間隔)、生産者、消費者によつて分類すれば次図の如くで、人口消費圧が如何に強く零細農に影響しているかが分る。また特にA層においては40才以上の婦人(多くは寡婦)が経営主であることも見逃せない。

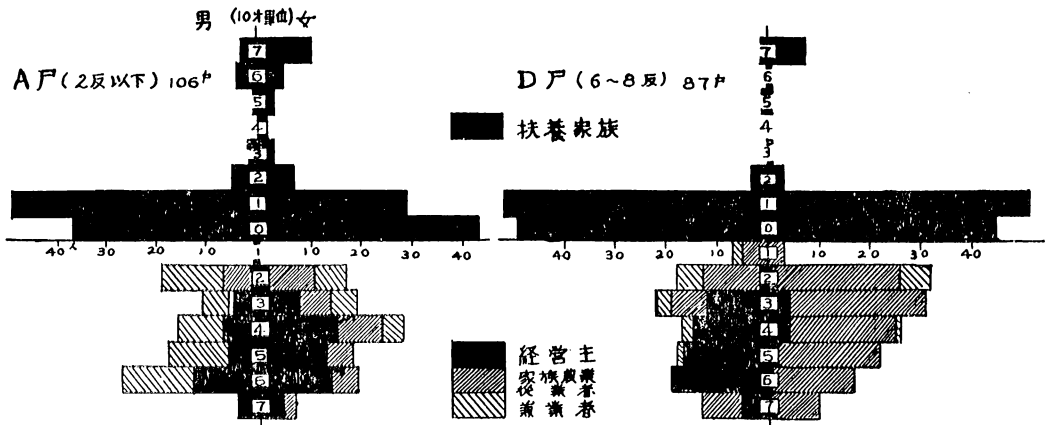
更に耕地についてみれば、A, B層の順に総面積が狭小であるのみでなく、分散度、農家からの距離においても甚だしく不利な状況にあることを知つた。

また所有家畜も少く、それに附随すべき畜舎、堆肥舎などもこれを欠ぐか不完全であり、大農具も用途別に一貫的には具備されず、特に耕作機は不備で殆んど鋤と鎌によつているが、唯職業上に利用価値の多い運搬具(特に荷車類)は殆んどの農家が所有している。

次に作物については、自給のために災害危険分散のため、狭小な耕地にあまりに多種の作物が僅かづつ付されている結果、却つて粗放化して反収は上らず、従つて農業所得は家計費の一部を補うのみで、しかも見るべき兼副業を近傍に求めることが困難であるため、一層貧困化を促進し、更にその結果が農業を縮小再生産に追込む形となつている。

即ち零細農の農業生産力は社会経済的な外部条件によつて停滞を余儀なくせしめられているのみでなく、内部の生産構造自体が退行に拍車をかけているのである。

面積階層別年齢別男女別人口構成



*九州農業試験場